

日本はネット敗戦

デジタル経済がもたらした社会への影響は功罪両面あるが、現在はプラスがマイナスを上回っている、というのが世界の大勢である。だからこそIT技術を使えない弱者との間で、格差拡大という負の側面への国の関与が大事になる。

日本ではグーグルやアマゾンのような巨大企業は誕生しなかったから、日本は「ネット敗戦」ともいわれる。その中で際立つのが「日本にネットを創った男」といわれる鈴木幸一氏（日本初のインターネット接続業者I-I-J設立者）の存在である（朝日新聞2023年9月7日朝刊）。鈴木氏はネット社会の人の育て方を問われ「日本では、みな小さくまとまりすぎています。ビル・ゲイツも変人でした。もつと変わった子を許容する社会や教育システムが必要ですよ」と答えている。やはり根っこは人をどう育てるかという教育に行きつく。国や地方の行政、産業や企業、そして家庭や教育現場で今話題のAI（人口知能）の採用を考えてみよう。その技術を使う対象者を選び、利用方法や問題が起きたときの規則を事前に決めるのも機械ではない。あくまでも人間が決めるのだ。そのためには、機械、技術そのものの知識だけでは足りない。それが社会全般に及ぼす影響についても知恵を働か

す人が必要で、人を育てる教育が重要になる。

教育デジタル化は未来の社会を変える

文部科学省のホームページでは「学校教育における一人一台の端末環境」を謳っている。だが一台の端末に教材の回答がすべて搭載されたとしても、端末操作の助手一人が採用される代わりに、教員数が減らされることは、絶対にあつてはならない（米国ではすでにこうした失敗が起きている。堤未果「デジタル・ファシズム」NHK出版新書）。

人が集い、話し合う交流の場としての「コミュニティ」。そこでは「会話」「言葉」が必須条件であり、教育現場こそ優れた実践の場になる。最優先されるべきは、生徒の言葉を磨く教師との直接対話である。「変わった子」は会話によって磨かれ発掘されるものだからである。ネット端末は、その補助手段として、有力な武器に留まる。

失われた40年にならぬことは重要だが、遅れてデジタル化に参加する日本は、負の面を知っているのが強みでもある。教育のデジタル化の成功は日本の経済の浮沈にかかっており、将来の日本社会の姿も変えてしまう。だからこそ、社会や教育システムの変革が、今待ったなしなのである。

BOOK REVIEW

高齢者の患者学——「治す医療」から「治し支える医療」へ



監修＝秋下雅弘
編＝東京大学医学部附属病院老年病科
A5判・並製・126頁
定価2200円（税別）
アドスリー
[目次より]
まえがき／1.フレイルと老年症候群について—歳をとるとは／2.転倒・骨折とその予防法／他

本書では、高齢者特有の要配慮事項を盛り込みつつ、高齢者が抱える病状について項目を分けて解説しています。高齢者がそれぞれの疾患や症状とどう向き合うべきなのか、どう付き合えばよいのか、患者としてどう振る舞えばよいのか、という視点で執筆されています。

本書を参考に、身に着けた知識を活かして、スマーに医療を利用いただくことを願っています。高齢者だけでなく、その家族の方にもご一読いただき、家族と自分の人生100年を共に豊かなものにしていただけたらと願います。（あとがきより）

ケアシステム——「治し支える医療」を実現する地域包括ケア



編＝飯島勝矢・山本則子
A5判・並製・208頁
定価4000円（税込）
東京大学出版会
[目次より]
はじめに／第1部 地域包括ケアシステムの構築に向けて／第2部 地域包括ケアシステムにおける多面的なモデルのデザイン——地域のあるべき姿を再考／他

本巻で扱うケアシステムに対して、「病気を診る、人を診る、家を診る、地域を診る」というフレーズを提唱してきた。医師も多職種協働のチームの一人となつて、全職種によるシームレスな現場を作り上げ、まさに今まで培ってきた「連携」から「統合」へギアを上げ、セカンドステージへ入っていくことが望まれる。その基盤となる真の地域包括ケアの改革が進むかどうかは、医療・介護関係者、行政、そして住民も含めた「まちぐるみでの啓発・価値観の共有化・活性化」が上手に進むかどうかにかかってる。（はじめにより）



本書は、持続可能性をキーワードとして、食生活のあり方、農業の技術革新、地域の農林水産業、さらには食料をめぐる国際協力に至るまで、幅広い分野にわたり近未来の農学の挑戦について解説したテキスト・参考書である。

食料、資源・環境、技術革新、地域社会の4つの領域から構成されており、客観的なエビデンスを重視して、最新のデータによる図表などを用いながら、身近な話題から国際的な論点まで、わかりやすく紹介する。

それぞれの分野に精通した著者たちが次世代に向けたメッセージとして発信する。農学部や関連する学部・学科の学生はもとより、これからの農学に関心をもつ読者に有益な示唆を与えてくれる書である。

(紹介文)より(一部抜粋)

編著＝生源寺眞一
B5判・並製・225頁
定価2700円(税別)
培風館
[目次より]
序章 新たな課題に挑戦する農学 / I部 食料をめぐる挑戦 / II部 資源・環境をめぐる挑戦 / III部 技術革新をめぐる挑戦 / IV部 地域社会をめぐる挑戦 / 他



発行＝矢野恒太記念会
A5判・並製・512頁
定価2700円(税別)

「データでみる県勢」は、「日本国勢図会」の地域版として、地方の社会や経済のようすを明らかにしたデータブックです。第1部「府県のすがた」では、各都道府県の概要を、主要データや人口ピラミッド、リーダーチャートで示すとともに、主な生産物などを掲載しました。また、地域の気になるトピックに関する解説ページを加えています。第2部「府県別統計」は、国土・人口、労働、産業、財政、社会・文化など8つの章に分けて、都道府県の多様な統計を収録しました。第3部「市町村統計」では、さまざまな指標についての市町村ランキングを紹介するほか、全市町村の主要統計をご覧いただけます。さらに、読者の方を対象に、第3部の統計データを矢野恒太記念会ウェブサイトにてエクセルファイルで提供しています。本書は電子書籍でも発行しています。

【編集委員】

石井クンツ昌子
猪熊 律子
岩崎えり奈
甲斐 一郎
北奥 郁代
後藤 春彦
生源寺眞一
中村 高康

お茶の水女子大学理事・副学長
読売新聞東京本社編集委員
上智大学教授
東京大学名誉教授
第一生命財団常務理事
早稲田大学副総長・教授
東京大学名誉教授
東京大学教授

「コミュニティ」……ジェンダード・イノベーションと
コミュニティ

2023年11月15日発行(年2回発行)

頒価1500円

編集・発行＝一般財団法人 第一生命財団

〒102-10093 東京都千代田区平河町1-2-10

電話03-3239-1231

制作＝地人館(大角 修・佐藤修久)

印刷・製本＝モリモト印刷株式会社

【編集後記】

▼ジェンダード・イノベーションは、性差を考慮して社会の革新を進めることです。現在は、性差があまり配慮されていません。たとえば、車イスが男性の体格を基準にしているなど、女性にとつて不都合なことが多々あります。

▼今号の特集ではジェンダード・イノベーションの視点を持つて研究・開発をされている医学、社会学の専門家に、その現状と今後の展望について座談会で語っていただきました。また、「ジェンダード・イノベーションの歴史について」、寄稿をいただきました。ご参考になれば幸いです。

「コミュニティ」読者の意見をお聞かせ下さい

ご意見、ご感想等を800字前後にまとめ、当財団へご郵送いただくか、dl-foundation@dream.on.nag.jpにお送り下さい。
「読者の声」欄に掲載させていただいた方には、粗品を進呈いたします。